

心音を止めて命を休ませる 伊藤三十六

いろいろ想像できるが何処まで想像していいのかがわからなかった。利江

心音と命と同じ気がするが。こういう創り方でいいのか。きみ

「心音」の意味をお聞きしたい。成子

「心臓」といわずに「心音」として優しさを感じた。一平

作者 死という字を分解した。死を詠んだ句。

休ませるといのは再生ではない。「心音」つまり雑念を消して、それから死んでいくという順を描いた。

「止まり」ではなく「止めて」だと自分の意思が入るのでは(倫也)など、いろいろな意見がこの後噴出。「心臓が止まったら死んじゃうじゃない」(きみ)など・・・

白桃の肌にそおっと刃を当てる 井手ゆう子

作者の優しさが出ている。「刃を当てる」怖い感じもする。きみ

綺麗な肌の娘さんを連想しました。千枝子

「そおっと」と「そーっと」という表記を比較してみたい。朔太郎

場面がよく表されているのだが、その先を聞いてみたい。表記も。芳夫

イメージが鮮烈。危険な色っぽさを感じた。正

作者 「包丁」という課題で作った過去の作品です。「そーっと」だと時間の経過を表すのではと感じ「そっと」ではなく傷つきやすいものに対して「そおっと」という表記を使った。

この後表記について様々な意見が出る。「～」という表記や「よおく」「よーく」など。課題吟であるから選者がどう読むか。こういった表記について迷わせているのは選者の披講ではないか。句意を参加者にどう伝えるか。「そおっと」の「お」は何音ですかとの質問も。

印刷された場合の文字から受ける美観をどう捕らえるか。など・・・

どれがどの町の事件か判りかね 五十嵐淳隆

作者 先の二句のすばらしさに脱帽・・・

※コメントなしです。

赤子抱く妻は保護者の腕になり 甲野竜雄

「腕になり」をはもう少し別の表現があるのではと思う。きみ

らくらくと子を抱いている娘を見ると母は強しと感じます。倫也

お母さんの腕の凄さに感心。桃葉

※ 作者欠席

実話です日本沈没上映中 若山かん菜

下六ですが、現在の温暖化など、環境問題を連想させる。利江

政界など今いろんなことが進行中なのと重ねて、上映中というイメージを湧かせる。成子

作者 この句を作ったきっかけは大阪の橋元知事が、大阪が沈没するとの発言を聞いたことです。知事の発言はおそらく沈没を財政破綻の意味で使っていたと思いますが、私は財政破綻だけでなく、環境破壊、モラルの崩壊などの意味を含めて沈没ということばを使ってみようと考えました。大阪より日本を沈没させよう、日本沈没といえば小松左京(だ

ったでしょうか) 原作の映画があったのと思い出しました。3年くらい前に映画になりましたが、知名度があまりないかなとの危惧もありました。下五については、映画がいままさにやっているという意味では上映中が最適かと考えました。「見に行こう」も考えましたが、意味が違ってしまうので、「上映中」にしました。

※ 作者欠席

「日本沈没」については、ご存知の方は皆さん30年ほど前の最初の作品を想定されていました。最近のリメイク版をご存知の方はおられませんでした。

ハリウッド映画の規制語られず 松橋帆波
秋葉原の事件の後の次の週のテレビ映画を見て感じた事。

遊んではいけない人と遊びたい 村田倫也
どういう意味でしょうか。若い方の作品でしょうか。きみ
優しい言葉で楽しい句。私も書きたいと思う。三十六
説明抜きで面白いと思う。芳夫
とても気になる作品。順風
意味深。子供同士とも取れるが、大人の事として理解できる。一平
面白い作品だと思います。品子
作者 子供の頃の思い。遊んではいけないといわれる子ほど魅力がある。もっとほかに遊
んではいけない人を想像していただいても構いません。

胴上げに千手観音手を貸さぬ 白勢朔太郎
意味が判らなかったので作者の方にお聞きしたい。伊呂波
作者 胴上げにもいろいろあって、落とされて怪我をする例もある。そういうときに、手
が沢山ある千手観音が助けてくれれば怪我もしないのにとと思うが、そんなことはないだ
ろうということです。

上がらないものは夕日と給与だけ 平松 健
まさに現代を詠んでいる。朔太郎
作者 今便乗値上げでいろいろなものが上がっているが、給料も年金も上がらない。そ
れを強調するために夕日という表現を使った。
見立ての作品の下五の検証を機会があればしてみたい。

達筆を半分カンで読み終える 佐道 正
中七に同感しました。伊呂波
実感としてよく判る。倫也
いい句です。品子
半分カンというところがいい。実感がわかる。ゆう子
実感として分かる。桃葉
実感。成子
実感句ですね。一平
作者 出来るだけ一読明解を心掛けています。実際に体験した事柄を基に詠んだ作品です。

たっぷりと老に甘えて生きてます 山口千枝子

半分羨ましい作品だなと思いました。順風

作者 後期高齢者などといじめられているようでいて、席を譲ってもらったり、荷物を持ってもらったりと、歳を取ったら親切にしてもらえるし、歳を取るのも悪くないなど感じる時がある。そのことを基に詠みました。

※自分の老いですか？親の年金に甘えている意味ですか？という質問がありました。句意は作者自身の老いということです。

友の訃にふと立ち止まる死生観 小倉利江

実感句。きみ

「立ち止まる死生観」なのか「立ち止まる」「死生観」なのか、どのように切って読むのかが分からない。正

実感として感じるものがあります。伊呂波

作者 実際の体験から感じた思い。若い方が亡くなるショックは大きい。

※死生観という言葉を使わずに死生観を表現できないだろうか？という質問がありました。無常観、死生観、など作者にも迷いがあった。テーマが重い作品が今回は多かった。

名医だよ母の一声チチンパイ 浦川一平

チチンパイの略。情景が浮かぶ。それで病気が治るかどうかは別だが。まもる

作者 子供のころ病院が遠くてちょっとしたことでは医者に行けなかった経験を基に詠んだ。

年金を芝浜と見てする預金 加藤品子

落語の芝浜らしいが、もう少し具体性が欲しい。利江

年金の金と預金の金が気になる。着想がいいので「芝浜を聞いて年金手をつけず」などではどうか 淳隆

芝浜は大金を拾う夢なので年金とちょっとそぐわないのでは。芳夫

芝浜はホントにあったお金で、年金はどうだろう。くんじ

作者 いろいろなご意見があるなど思いながら出した作品です。芝浜の、夢だよといわれて、手にしたお金をあてにしないで立ち直ったというところを取り込んで、当てにならない年金という意味を表したかったのだが・・・。

釣銭の手と手が触れて通う店 菊池順風

気持ちがよく判る。店の人が魅力的なのだろうか。倫也

男の人はしょうがないなあという印象。面白い。ゆう子

釣銭を投げ出す人がいるような店には二度と行きたくないが、そういう意味でいいところを突いている句だと思う。 淳隆

釣銭で手が触れるのだからよほど親密な店ではと感じた。トレイで貰うのが多いので。朔太郎

最近職場教育が進んでいて、こぼさない様に教育されているのを知らないで喜んでいいのかなどというところが面白い。健

作者 若い人がアルバイトしているような、日常生活の中のお店の風景。

披講時に「釣銭の手と手が」触れるのか「釣銭の手と 手が」触れるのか、作者の思いを音として伝える披講を検証したい。

※釣銭が落ちないように手を添えるマニュアルに対して、お金は多くの人の手を渡すも

のだから、その手でお客の手に触れるのはどうかという意見をあるところで見たとご指摘がありました。

うらおもてある手のひらで握手する 洪川溪舟
意味深く面白い。世渡りの裏表がよく出ている。きみ
握手にもいろいろ思惑が絡んでいる監事がよく出ている。倫也
握手せざるを得ない時がある。不本意な握手、嫌々する握手を思わせて面白い。まもる
「手のひらと」と相手に裏表があるようにすると面白いのでは。淳隆
こういう手の見方もあるのだなと思いました。千枝子
「手のひらで」でいいと思う。作者は自分を見つめているのでは。三十六
「手のひらが」ではどうでしょうか。芳夫
いい句だと思うが、てのひらの裏は手の甲ではという事を感じた。正
実は心の中の裏表を表現されているのではと感心した。くんじ
披講時に「うらおもてある手のひらで」「うらおもてある手のひらで」という間の取り方。そこで思いを何処まで伝えられるかを検証したい。
※ 作者欠席

高齢の線を引かれて納まらず 石田きみ
実感句としていい。利江
時事としていい句だと思う。品子
作者 今更に後期だの末期だのといわれる事に腹が立ちました。

運ちゃんにチップを貰うお役人 棚瀬くんじ
「運ちゃん」という表現は差別的な印象を受ける。表現としてどうか。健
作者 いわゆる居酒屋タクシーの事を詠みました。

娘のケータイ鳴ると家中耳となり 渡辺まもる
そういうことあったなと思いました。成子
「家中耳となり」は面白いと思ったが、今はもう携帯電話なのでどうだろうと思う。
「娘」は「むすめ」であるから字余りになるのでは。健
作者 まず「家中耳となり」という部分が出来て、その後で上の部分を作りました。「娘」の表記につきましては、争点があることは知っていますが、通常使われている表記であるという認識で使いました。「耳となる」では静止しているイメージがあるので「耳となり」にいたしました。

取り柄なくスポットライトあたる夢 藤井成子
作者 実際には目立つ存在ではないのだが、心の中ではスポットライトを浴びたいという願望があるという点を表現してみたかった。

クラス会小学生にすぐ戻り 高田以呂波
老いてもこういう時があってもいいなと思いました。桃葉
作者 クラス会があったときの情景描写に終わってしまった。

印鑑を嫁に委ねて旅に出る 河野桃葉

印鑑を広げて解釈すれば、大切なものを嫁に預けるという事。朔太郎
全幅の信頼を寄せているのか、不測の事態を想定しているのか、深い句だなと感じた。順
風
信頼を寄せていると同時に、覚悟の程を感じる。くんじ
作者 私の歳を取ってからの上手な生き方の工夫。息子より嫁を大事にして毎日遊んで
います。

骨盤が平行移動するダンス 丸山芳夫
ダンスは知りませんが、骨盤が平行に動くという風景が面白いと思います。まもる
フラダンスを連想しました。ゆう子
年配の方の社交ダンスのイメージが浮かんでくる面白い作品。三十六
作者 テレビのダンス教室を見ていたときに浮かんだ。手や足はよく動くのだが、腰は
しっかりしている。そこで骨盤と大げさに表現し